令和８年度

取扱注意

授業改善推進プラン【前期課程】

①令和８年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画（様式１）
②令和８年度第２～６学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析（様式２）
③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案　４教科（様式３）

東京都北区立都の北学園

〔様式1〕

令和8年度　北区立小学校(前期課程)学力向上を図るための全体計画

東京都北区立都の北学園

令和8年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	全学年の校内平均正答率において、目標値と全国平均正答率を上回っています。また、4年以外は区平均も上回っています。
社会	5・6年の実施です。5・6年ともに校内平均正答率において、目標値と全国平均正答率を上回っています。しかし、区平均と比較すると、5年は1.3ポイント下回り、6年は区平均と同じ値となっています。
算数	全学年の校内平均正答率において、目標値と全国平均正答率を上回っています。また、5年以外は区平均も上回っています。
理科	4～6年の実施です。4～6年ともに校内平均正答率において、目標値と全国平均正答率・区平均をすべて上回っています。
英語	6年のみの実施です。校内平均正率において、目標値と全国平均正答率を上回っています。しかし、区平均と比較すると、0.1ポイント下回っています。

本校の教育目標

社会の急速な発展に伴う教育的課題に対応するとともに、発達段階に応じた9年間の切れ目のない指導を展開し、地域と共にぬくもり溢れる学び舎で、ふるさと北区の一員としての自覚をもち、国際社会で活躍できる児童・生徒を育成する。
1. 自分と他人のよさを認め、互いを思いやる心豊かな人(豊かな心)
2. 自ら考え正しく判断し、ねばり強くやり遂げる人(学びつづける力)
3. 心も体も健康で、仲間とともに取り組む人(すこやかな体)□

学力向上にかかわる経営方針

・確かな学力の定着を目指して、日常の授業を授実させる。
・各教科の単元、題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。計画は週案簿に明示する。
・ICT機器を日常的に活用し、分かる授業を目指す。
・学習する児童・生徒の視点に立ち、授業を見直し改善する。
・「授業改善推進プラン」は策定直後からプランに基づく授業改善に日々取り組む。
・習熟度別少人数指導を実施し、個に応じた指導を展開することで、確かな学力の定着を図る。
・正しい日本語を用いて指導に当たる。

本校が児童に育成したい力

□基礎的・基本的な知識・技能の定着・向上
〇家庭学習の習慣化
〇各教科の思考力・判断力・表現力の育成
〇学びに向かう力の育成□

校内における学力向上推進体制

〇校内研究を日々の授業に生かし、各教科の系統性を見通した授業改善の実践を行っていく。
〇ICTを有効に活用し、分かりやすく創意工夫された授業を行い、学力の向上を図る。
〇授業についての情報交換・意見交流を活発に行い、授業力の向上を目指す。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・各教科の単元・題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。 ・学習指導要領に基づいて授業を計画し確実に実践する。 ・学力パワーアップ講師と連携し、個別指導を充実させ、個に応じたきめ細かい指導を実践する。 ・きたコンの活用を充実させ、基礎基本の定着や考えの共有による学びの深まりを実現していく。	・放課後に「学力フォローアップ教室」を実施し、学力の個人差の大きさに対応する。 ・前期課程、後期課程の系統性を明確にし、それを生かして日々の授業改善を行っていく。 ・日常的にICT機器を有効に活用し、児童・生徒の興味・関心を喚起するとともに、学習内容の理解を促進する。	研究主題が「自分の考えを表現することのできる児童・生徒の育成 」である校内研究を推進し、ユニバーサルデザインの考えを取り入れながら9年間系統立てて指導していくことを目指す。 ・研究推進委員会を中心に計画的し、組織的に実施する ・教員同士の授業参観や交換授業等のOJT研修を積極的に行い、それぞれの授業力を向上させる。	・各教科の評価については、評価材料として豊かな質・量・種類を確保し、3観点の関連に留意しながらバランス良く適切に算出する。 ・指導計画と一体化した評価計画により、評価を行う。評価規準を明確にし、個々の児童に応じた評価を行う。(絶対評価) ・児童のノートやワークシートの記録、授業での様子の観察等から、一人一人の学習の成果を考察する。 ・振り返りの活動を重視し、児童がその時間にどのようなことを学んだのかを自分で確認させるとともに、教師がそれを価値付けていく。	・学校での教育活動を積極的に公開したり、授業の様子やねらい等を伝えたりすることで、協力して子どもを育てる意識をつくっていく。 ・個別懇談や保護者会等を通して、保護者と教員による児童の相互理解を図る。 ・家庭学習の重要性を個別懇談や保護者会等で継続的に伝え、家庭の協力を得ながら指導を進める。 ・保護者や学校運営協議会による学校評価を実施し、学校での教育活動をよりよいものに改善していく。

〔様式2〕　令和8年度　第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立都の北学園

国　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の正答率は目標値を9.9ポイント、区平均を3.2ポイント、全国平均を9.0ポイント上回っています。内容を見ると、全ての項目で目標値を上回っています。その中で、「話を聞き取る」と「漢字を読む」の内容が目標値に近い値になっています。	「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、目標値、区平均、全国平均を上回っています。目標値と比較すると、「知識・技能」は6.4ポイント、「思考・判断・表現」は12.2ポイント上回っています。	内容・観点をそれぞれ分析すると全体的に正答率が高く、目標値も全て上回っているので、前学年の段階の内容はよく身に付いていると分析します。しかし、「話を聞き取る」と「漢字を読む」は目標値に近い値であるため、他の内容と比較すると今後の課題です。
算　数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の正答率は目標値を6.2ポイント、区平均を0.8ポイント、全国平均を5.1ポイント上回っています。内容別正答率では、全ての項目で目標値を上回っていますが、「120までの数」についてはほぼ平均と同じになっています。	「知識・技能」は目標値、全国平均を上回っていますが、区平均は0.3ポイント下回っています。「思考・判断・表現」は目標値、区平均、全国平均を上回っています。	「知識・技能」が、ほぼ全ての内容において区平均よりも下回っています。「形」では4.5ポイント、「時計」では2.4ポイント、「120までの数」では2.3ポイント下回っています。

〔様式2〕　令和8年度　第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析

国　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の正答率は目標値を11.3ポイント、区平均を3.1ポイント、全国平均を9.7ポイント上回っています。内容を見ると、全ての項目で目標値を上回っています。その中で、「漢字を読む」の内容が目標値に近い値になっています。	「知識・技能」は目標値より11.1ポイント、区平均より2.8ポイント上回っています。「思考・判断・表現」は、目標値より11.4ポイント、区平均より3.2ポイント上回っています。	「知識・技能」の中で「漢字を読む」は区平均よりも0.3ポイント下回っています。特に送り仮名がある問題の校内正答率が低くなっています。「思考・判断・表現」の中の「文章を書く」では、14.1ポイントの児童が無回答でした。
算　数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の正答率は目標値を9.4ポイント、区平均を4.4ポイント、全国平均を9.7ポイント上回っています。内容別正答率では、全ての項目で7ポイント以上目標値を上回っています。「かけ算」と「三角形と四角形」は11.0ポイント目標値より上回っています。	「知識・技能」は目標値より9.6ポイント、区平均より4.6ポイント上回っています。「思考・判断・表現」は、目標値より8.7ポイント、区平均より3.8ポイント上回っています。	「知識・技能」はほぼ目標値を上回っていますが、中でも「長さ・かさ」の長さの大小を問う問題では正答率が目標値と近い値になっています。「思考・判断・表現」の「10000までの数・分数」でどのように数の大小を判断するかを記述する問題の正答率が25.5ポイントで、区の目標値より4.5ポイント下回っています。

〔様式2〕　　令和8年度　第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析

国　　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の正答率は目標値を4.6ポイント、全国平均を3.5ポイント上回っていますが、区平均は3.0ポイント下回っています。内容を見ると、「話し合いの内容を聞き取る」は区平均を2.0ポイント上回っていますが、その他の項目はすべて区平均を下回っています。特に「漢字を書く」「文章を書く」は5～9ポイント下回っており、書くことの苦手さが浮き彫りとなりました。	「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、目標値と全国平均を上回っています。しかし、区平均は「知識・技能」は4.3ポイント、「思考・判断・表現」は2.1ポイント下回っています。	国語の基礎である“言葉の特徴や使い方に関する事項”の未定着が区平均を大きく下回る要因だと考えられます。漢字の読みはできているので漢字を書くことと言葉を根拠に説明文の内容を読み取ることに課題が見られます。また「思考・判断・表現」の中では、特に自分の考えを文章で書くことに苦手意識と課題が見られました。
算　　数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の正答率はすべて全国平均を上回っています。しかし、教科書の活用の正答率は0.8ポイント区平均正答率より下回っています。内容別正答率は、９つ中３つの内容で区平均を下回っています。	昨年度の正答率や今年度の目標値よりも上回っています。区平均と比較すると「知識・技能」は1.1ポイント上回っています。しかし、「思考・判断・表現」は1.7ポイントも下回っています。	特に下回っている項目に注目すると、あまりのある除法の商とあまりを処理して正しい答えを求める方法の理解が十分ではないと考えられます。さらに、問題把握の時点で場面の状況の理解や基本的なグラフを読み取る力を付けることが今後の課題であると考えます。
理　　科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の平均正答率は、目標値を7.2ポイント、全国平均正答率を5.4ポイント上回っています。領域別正答率をみると、「生命と地球」が区平均よりも0.3ポイント下回っています。	「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、目標値と区平均、全国平均を上回っています。しかし、「知識・技能」は区平均と比べると0.5ポイントしか上回っていないので、知識を定着させるために復習する必要があります。	目標値、全国・区平均をすべて上回っていますが、問題別にみると、「植物の育ち方」「昆虫の育ち方」「音の性質」「磁石の性質」は、区内平均を下回っています。また基礎の正答率が区平均よりも0.2ポイントほど下回るので基礎を高めることが課題であると考えます。

〔様式2〕　　令和8年度　第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析

国　　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の平均正答率は、「漢字を読む」「物語の内容を読み取る」「インタビューをする」については、区平均と比べて、1～3ポイント程度上回っていますが、「話し合いの内容を聞き取る」「言葉の学習」「説明文の内容を読み取る」については、0.5～1ポイント程度下回っており、正確に聞き取ったり読み取ったりすることについて課題が見られます。	「知識・技能」の校内平均は0.1ポイント、「思考・判断・表現」の校内平均は0.8ポイント区平均を上回っています。また、全国平均についても「知識・技能」は4.8ポイント、「思考・判断・表現」は6.9ポイントと大きく上回っています。	内容別正答率を見ると、「説明文の内容を読み取る」の中の要約部分が14.2ポイント、「文章を書く」の4問全てにおいて17.3ポイントと、記述式の問題の無解答率がとても高いです。また、類型外誤答率も同じ項目で同様に高いので、問題の読み間違いや問題内容の理解不足等も考えられます。
社　　会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の正答率は、目標値を5.9ポイント、全国平均を4.9ポイント上回りましたが、区平均を0.5ポイント下回っています。領域別で見ると、「生活環境を支える活動」は区平均を0.2ポイント上回っています。一方で、「自然災害からくらしを守る活動（水害）」、「都道府県の様子」、「伝統や文化、先人の動き」、「特色ある地域の様子」の各領域においては、目標値は上回っているものの区平均には届いていません。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに、目標値を大きく上回っています。しかし、区平均との比較において、「知識・技能」は区平均を0.3ポイント上回っているのに対し、「思考・判断・表現」は区平均を1.4ポイント下回っています。	「知識・技能」の側面では区平均を上回る成果が見られるものの、「思考・判断・表現」においては区平均を下回る課題があります。内容別（領域別）の数値とあわせて見ると、「自然災害からくらしを守る活動」や、「伝統や文化、先人の動き」などの領域において、単なる知識の記憶にとどまらず、複数の情報を相互に関連付け、背景にある理由や工夫について自分の言葉で論理的に説明・表現する問題においてつまずきが見られます。
算　　数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の平均正答率において「いろいろな形」以外は区平均を下回っています。特に、「分数」は4.7ポイント、「面積」は6.3ポイントと区平均から大きく下回っています。全体的に引き続き補充の必要があります。	「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらの項目も区平均を下回っています。「知識・技能」が1.3ポイント、「思考・判断・表現」は1.4ポイント下回っているため、基礎力の定着と考えたり、表現したりする能力を伸ばしていく必要があります。	どの項目においても区平均を下回っていることから、既習事項の定着率が低いと考えられます。特に、「小数」記述問題の無回答が20.6ポイントであり、自分の言葉で説明する問題に苦手意識をもっている児童が多くいます。定着に向けてさらなる学習をすることが必要です。
理科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の教科の正答率は61.9％で、区平均を0.2ポイント上回っています。基礎は0.6ポイント上回っていますが、活用では0.7ポイント下回っています。問題内容別正答率で見ると、12項目中6項目が区平均を下回っています。	「知識・技能」の観点では区平均と同じ数値で、目標値と比べると3.7ポイント上回っています。「思考・判断・表現」は、区平均を0.4ポイント上回っており、目標値も4.3ポイント上回っています。	問題別内容の正答率では12項目中6項目が区平均を下回っています。「動物のからだのつくりと運動」は7.8ポイントと大きく下回っており、「雨水のゆくえと地面のようす」は2.7ポイント、「水のすがた」は2.8ポイントと2.5ポイント以上下回っています。

〔様式2〕　　令和8年度　第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析

国　　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は、「言葉の特徴や使い方」「我が国言語文化」「読むこと」については、区平均と比べて、1～4ポイント程度上回っていますが、「情報の扱い方」「書くこと」については、2.0ポイント程度下回っており、情報を活用しながら書くことについては課題が見られます。	「知識・技能」の校内平均は、2.0ポイント程度区平均より上回っています。ただ、「思考・判断・表現」の校内平均は、区平均より0.7ポイント下回っています。身に付けた知識・技能を、思考・判断・表現として活用することができていない現状が伺えます。	どちらにおいても、漢字や言語などの基本的な「知識・技能」については、区平均以上に身に付いていることが分かります。しかし、情報を適切に読み取り活用したり、文章としてまとめたりすることは平均より低く、「思考・判断・表現」として活用が不十分です。文章を書く活動の中で、文章構成の組み立て方や言葉の使い方などを丁寧に学習させていくことが必要だと思われます。
社　　会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率は、区平均と比較すると「世界の中の国土」は大きく上回っているものの、「農業」「自動車工業」「情報」については平均を2.0ポイントほど下回っています。単元ごとに内容の補充を行う必要があります。	「知識・技能」の校内平均は区平均に対し、0.3ポイント上回っているものの、「思考・判断・表現」の校内平均は区平均に対し0.3ポイント下回っています。社会科の学習を単なる暗記教科とせず、社会的・歴史的変容について背景を考えながら学習を展開していきます。	内容についても観点別についても本校の結果は、全国平均に対し5.0～8.0ポイント上回り、区平均に対しほぼ同程度と読み取ることができます。継続して社会的歴史的変容の理解を深め、既習内容を反復することでさらなる成長を目指していきます。
算　　数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内の平均正答率はどの項目においても区平均を上回っています全体的に平均2.2ポイント程上回っていますが、「分数の計算」「比例・単位量あたりの大きさ」については区平均を上回っているポイントが1.0ポイント以下です。この内容については引き続き特に補充の必要があります。	「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらの項目も区平均を上回っています。「知識・技能」が2.4ポイント上回っているのに対して「思考・判断・表現」は1.3ポイントとやや低いので、考えたり、表現したりする能力については特に伸ばしていきます。	どの項目においても区平均を上回っていることから、既習事項の定着率は高いと考えられます。一方記述式の無回答率については他の問題に比べて20ポイント以上高いので、論理的に説明する力を養うことが今後の課題です。
理　　科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
教科全体の正答率、及び基礎や活用の正答率は目標値や区平均を数ポイント上回り、理解度は全国平均を上回っています。一方、活用の校内正答率(50.9%)は基礎学力の校内正答率(64.8%)に対して13.9ポイントも下回っていて、この数字だけではかなり低い学力であると思われますが、区や全国でも同じ傾向が現れていて、全国レベルで活用の低下が顕著化しています。これは、問題レベルの難化と児童の理解度の低下の相加作用が起因していると考えられます。なお、特に平均点の低下が見られる領域は物質・エネルギー領域であり、視覚的に捉えにくい物質の粒子論やエネルギー論に関係する領域での理解度に学力の低下傾向が見られます。	3観点のうち、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の2つの観点ともに、校内平均点は目標値・区平均・全国平均を0.3ポイント以上上回っています。特に、「思考・判断・表現」は、全国平均を3.9ポイント上回っていて、事象や現象・変化に対して考えたり、その理由を判断したり、そして表現したりする能力において確実に伸びています。また、昨年度から集計表に表れていない「主体的に学習に取り組む態度」においても、通常授業において伸長している傾向が見られています。	生命・地球領域には児童の興味や関心の対象が多く、知識の蓄積が見られます。それは、校内平均点が目標値や区平均・全国平均と比べ、いずれも数ポイント上回り、得点率が70%後半まで伸びていることからも推定できます。また、観点別得点率でも、知識・技能の得点率が62.8%と目標値を3.1ポイント上回っていることからも確認できます。しかし、物質・エネルギー領域では校内平均点が40点代から50点台にとどまり、これは観点別正答率の思考・判断・表現の平均を50点台まで下げている理由の一つであると考えられます。この領域の得点率の低下は区や全国レベルでも共通ですが、その中でも校内平均が区や全国に比べ数ポイント以上上回るなど本校児童は理解度を伸ばしていることも確認できます。
英　　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均正答率は、目標値に比べると5.0ポイント上回っています。内容別正答率では、ほとんどの項目で目標値に対して大きく上回っています。また全国平均正答率に対しても、ほとんどの項目で目標値を上回っています。	目標値と比較すると、「知識・技能」については、6ポイント、「思考・判断・表現」については4.4ポイント上回っています。しかし、「思考・判断・表現」の区平均正答率と比べると1.6ポイント下回っています。全国平均正答率に対しては、1.8ポイント上回っています。	内容と観点をそれぞれ分析すると、「単語の表現の意味理解（聞く）」は、正答率が91.3%であることに対して、「アルファベットの読み（聞く）」は正答率76.6%と全国平均正答率に0.3ポイント満たない結果でした。アルファベットを読むことや聞くことなどの、基本的な力を身に付けることが課題であると考えます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （国　語）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	特殊音節の読み書きに課題が見られます。6月下旬にひらがな五十音の指導が終わりましたが、引き続き指導を重ねる必要が必要です。また、文章中の「は」「へ」「を」の表記に課題が見られます。音読や語彙を増やす学習を強化する必要があります。	促音、長音、拗音が入った言葉は、MIMの動作を取り入れながら読む工夫をしていきます。その動作を書くことへつなげられるよう指導していきます。また、言葉集めやしりとりをしたり、詩集を読んだりし、多くの言葉や文章に触れる機会を設けていきます。文章を書く活動も増やし、助詞を正しく使えるよう繰り返し指導していきます。	家庭学習では、促音、長音、拗音が入った言葉のプリントを行っていきます。漢字指導が始まった後は、小テストをこまめに行って理解を把握し、必要に応じて個別指導も行っていきます。また、文章を書いた後には、助詞、句読点など見直しをする習慣を身に付けさせていきます。
2年	既習事項の定着は高いと考えられます。その中で、話を聞き取ること、漢字を読む問題での正答率が低く、力を付けていく必要があります。大事なことの取捨選択の指導不足、また文脈の中での読み、語彙力の定着を図る指導が必要です。	短文をアウトプットしたり、聞き取りメモを活用することを重視していきます。アウトプットさせることで、能動的な聞き方を定着させていきます。漢字は短文で声に出して読ませ、リズムよく読ませることで記憶の定着を図っていきます。	朝学習や、授業の始めに聞き取りや漢字の読みをスモールステップで取り入れ、定着を図っていきます。また、学習した漢字を日常生活で活用できるように、意図的に漢字を書く場面をつくります。
3年	分析結果より、漢字の読み書きに課題が見られます。特に送り仮名の書き間違いが多く、それにより自分の思いや気持ちを文章化する際もうまく文章に漢字を用いることができず、読みにくい文になっているため、丁寧に指導する必要があります。	漢字練習の時には漢字単体で書くのではなく、熟語や文章で書くことを意識させていきます。また、日々のノート指導でも漢字で書くことを意識させ、文章の中で使っていけるように指導していきます。	国語以外の教科でも漢字で書けるよう定着を図っていきます。特に社会や理科など板書をノートに写す時や、考えや文章を書く際にも、漢字で書くことを意識して書けるよう指導していきます。
4年	分析結果より、「漢字を正しく書くこと」と「文章を書くこと」に課題が見られました。既習漢字を用いて、自分の考えを文章に表し、推敲する習慣を身に付けさせる指導が必要です。	習った漢字を日常的に使うことをさらに意識して取り組んでいきます。文章を書く学習では、自分の考えだけでなく、なぜその考えなのかという理由を必ず書くように指導していきます。	漢字の定着を図るため、漢字小テストに向けた練習や友達と見合う時間を確保していきます。文章を書く学習では、書いた文章を友達と共有し、質問やアドバイスをし合うことで、より理由を明確にしたり、文章の内容が洗練されたものになるよう指導していきます。
5年	「話し合いの内容を聞き取る」「説明文の内容を読み取る」ことに課題が見られます。聞いたり読んだりした内容の要点を整理し、根拠を明確にして理解する力を育成する指導の充実が必要です。	話し合いや説明文の学習において、重要語句や要点を意識して聞く・読む活動を取り入れます。聞き取った内容や文章の要旨を、キーワードや図、短い言葉で整理し、友達と説明し合う活動を充実させます。	補充指導では、短い話や説明文を用いて、要点を捉える練習を繰り返し行います。発展指導では、複数の情報を比較・整理し、要約したり、自分の考えを根拠を示して説明したりする活動に取り組ませます。
6年	「情報の扱い方」「書くこと」について課題が見られます。基本的な言葉の使い方や読むことについては、ある程度定着しているので、その力を文章を書くときにどのように活用したらよいかを、明確にして指導していくことが必要です。	文章を書く時の重点を明確にしていきます。文章構成図や思考ツールなどを活用しながら、自分の書きたいことを整理したり、論理的に伝える際の順序を考えたりする活動を取り入れ、文章を完成させるまでのステップを、細かく丁寧に設定していきます。	国語で学習したことを、他教科の振り返りや行事の感想を書くときなどに想起させ、定期的に書く活動を取り入れていきます。総合的な学習の時間などを活用して、自分で調べた情報を整理し、構成を考えながら自分の伝えたいことを根拠を明確にして書けるように繰り返し取り組ませていきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （社　会）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	具体的に調べてみたいという意欲は多くの児童にあります。しかし、資料を活用して、必要な情報を得て、調べた内容から自分で考えたことを表現、説明することを苦手としています。考えを明確にしやすい資料を提示したり、補足説明を加えながら、丁寧に授業を進めていく必要があります。	教師側が意図した資料を渡し、調べることを焦点化するなどし、効果的な調べ学習を行えるようにします。表現力については、ノートによる自由記述を繰り返すことで、課題に対して自分の意見や考えを書くことに慣れさせていきます。	社会の学習時間に前時の学習を振り返る時間を十分に確保し、プリント学習などを通して学習の定着を図ります。自分の意見や考えを表現する場面を作り、書き方の指導を行っていきます。発展指導は、単元を通して学んだことを全体の場で発表する機会を設けます。
4年	資料を正しく読み取ったり、読み取ったことを自分の言葉で表現したりすることに苦手意識が見られます。そのため、学習した内容を自分たちの生活と関連付け、日常生活にどのように活かせるのか、学びと生活を繋げて考える力を育てていく必要があります。	資料を基に読み取ったり、自分の言葉でまとめたり、発表したりする学習を意図的に取り入れます。また、児童の日常生活と関連させながら、実際に体験を通して学ぶ機会を増やしていき、児童が主体的に取り組める授業づくりをしていきます。	前時までの学習内容を振り返る時間を設定し、知識の定着を図ります。そのために、資料から出来事の内容や背景を理解する学習を多く取り入れ、資料から必要なことを読み取る力を高めていきます。特に教科書や副読本を深く読み取り、新聞やポスター等にまとめたり、プレゼンしたりする機会を設けます。
5年	分析結果より、複数の資料（地図・グラフ・年表等）を多角的に比較・関連付けながら自分の考えを構築・記述する「思考・判断・表現」の観点において、課題が見られます。そのため、日々の授業において、資料を関連付ける活動や、児童自らが根拠を基に思考を深め、多角的・多面的に表現する場面の設定がまだ不十分であると考えています。	複数の異なる資料を提示し、それらを比較・関連付けることで新たな気付きを生み出すようにします。また、思考ツールを活用して児童の考えの可視化を図るとともに、複数の根拠を組み合わせた記述の型を提示します。これにより、情報を構造的に整理し、自分の考えを文章で論理的に説明する練習を段階的に積み重ねていきます。	学習内容の確実な定着を図るため、授業後の振り返りや、単元の終末等に、学習した内容や資料のデータを活用して「もし自分が～なら、どのような対策（選択）をとるか」を考えるシミュレーション学習や地域提案新聞づくりなどを設定します。さらに、ペアやグループで互いの記述を読み合う「相互評価」の時間を意図的に作り、友達の優れた表現や多角的な視点を進んで取り入れ、自身の表現力の質を高められるようにします。
6年	さらに意欲の向上を目指して、学習課題の明確化・学習内容の共有化を進めていきます。特に歴史分野の学習では、単なる暗記学習に留まらぬよう、出来事の背景について確実に理解させ、多面的に学習内容の定着を図ります。	政治分野では、現行憲法と旧憲法の比較をすることで、わが国の憲法の崇高な内容を理解させます。歴史分野では、時代を戻りつつ変容を理解させます。国際関係分野の学習では、将来に生きる子どもたちが、どのように他の国々と関わっていくべきなのかを考えていきます。	補充については、年表やプリントを活用して、実際に手を動かし視覚化させ定着を図っていきます。発展指導は、児童の疑問やつぶやきや意見を拾い上げ、タブレット端末等を活用した調べ学習につなげ、表現する能力を高めさせていきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （算　数）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
１年	10までのたし算・ひき算は正答できますが、時間を要する児童や指を使う児童がいます。また、文章題は問われている意味が分からず、正答できない児童がいます。問題文を読み取る力を身に付けさせる指導が必要です。	・授業の始まりに計算カードやフラッシュカードに取り組む時間を確保します。 ・文章問題は意味を確認しながら半具体物を用いて指導し、問われていることを確認します。 ・単元計画を工夫し、類題に取り組む時間を多く確保します。	・宿題や朝学習で計算プリントなどに取り組ませ、習熟を図っていきます。 ・ペアで考え方を伝え合う時間を設け、自分の考えを伝え、聞く学習を取り入れていきます。 ・個に応じた指導を適宜行っていきます。
２年	「形」では多角的な観察体験を増やし、「時計」では60進法、「120までの数」では、10のまとまりを連想できるようにする必要があります。目に見えにくい概念を具体的なイメージと結び付けて理解する力や、数量・図形の関係を抽象的に捉える思考力を育成する指導が必要です。	具体物に触れる機会をつくったり、時計の模型を用いたりするなど、操作することを通して理解を深めていきます。また、ブロックや位取りシートで視覚的な量感をもたせながら定着を図っていきます。	学び直しの時間を確保していきます。具体的・操作的活動を取り入れながら定着を図っていきます。「時計」では、日常生活と結びつけていきます。発展指導では、思考力を高められる演習問題を多く取り入れます。
３年	分析結果より、ほとんどの項目で目標値を上回っており、基礎の定着が見られました。しかし、その中で10000までの数、分数の問題での正答率が低く、数の大小を判断する基準やポイントを理解する力を身に付けさせる必要があると考えます。	・課題に対して、自分で考える時間や、友達の意見を聞く時間と学び合いが深まる時間を確保します。 ・数の概念を押さえるために、位を常に確認しながら計算を行っていきます。 ・苦手とする児童が多い単元は、習熟度別グループ編成を特に工夫し、「一歩一歩クラス（ゆっくりクラス）」に厚みをもたせるようにします。	・少人数対応で、児童個々の様子を把握し、必要な支援を行えるように準備します。 ・ペア学習やグループ学習を行い、自分の考えを伝える時間を確保します。 ・大きな数や、繰り上がり、繰り下がりのある計算、数の概念や量感の補充問題に取り組んでいきます。
４年	ほとんどの項目で目標値を上回っており、基礎の定着はできていると考えられます。さらに学力を向上させるために、記述式で答える問題を多く取り入れ、何を答えるべきか判断させる指導方法を工夫します。	問題の内容の理解を深めるため、今以上に自分で考える時間や自分の考えを分かりやすく説明する活動を取り入れるようにします。また、既習の内容の反復練習の機会を設けます。	問題の解決に意欲的に取り組めるように既習事項の定着を図ります。児童の実態に応じて掲示の仕方を工夫します。考え方を共有し個人の振り返りの時間を充実させます。
５年	分析の結果より自分の考えを順序立てて説明することへの苦手意識が高い傾向が見られました。単元の導入では既習事項の確認をしたり、関係する単元の復習をしたりするなどの機会を設けてましたが、既習事項を活かして問題をどのように解決していくのかを考えさせる手立てが不十分であったと考えます。	既習事項の定着が低い傾向もあるので、授業の終わりの10分間で既習事項の定着を図るための反復練習をします。また既習事項を活かして問題を解けるように既習したことを教室に掲示していつも振り返られるようにします。そして児童一人一人がじっくり考えることができる時間を確保します。	補充に関しては、既習問題を振り返りながら基礎の問題を何度も解き、確実に定着できるよう児童の実態に応じた必要な支援をしていきます。また発展に関しては、自分の考えを深める時間を十分に確保して思考力を伸ばしていきます。
６年	既習事項の定着は高いと考えられます。毎回既習事項から新しい問題に取り組むような学習の流れができている成果と考えられます。しかし解を求めることはできるが自分の考えを論理的に説明する力が低いです。答えまでの過程を自分の言葉で説明できるようにするための手立てが今後の課題です。	単元の初めに関連する既習事項を復習する時間を作り、既習事項を使って新しい問題を考える学習の流れを作ります。また自分の考えをもつ時間と他者と交流する時間をしっかりとり、問題の解にたどりつくまでの過程を深めるようにします。	既習事項の定着を図り、活用しながら問題を解決できるよう必要に応じて掲示します。また反復練習の時間を多くとるようにします。また全体で比較検討する前に検討する視点を示すようにし、どの解き方がよりよいものであるのかを話し合うようにします。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （理　科）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	初めての実験に興味関心をもって取り組む児童が多いです。昨年まで校内に学習園や校庭がなかったため、自然観察の単元では限られた環境での学習でICTも活用しながら学習に取り組むことができました。そんな中、記述式の問題では、どのように解答したらよいのか分からない児童もおり、実験に対して考察する時間が十分に確保されていない課題があります。	予想や考察を自分の言葉で書けるように、グループ学習等を通して他の人の意見から学びを深める機会を多く作っていきます。また、学習内容が身近なところで、どのように生かされているのか考えながら学習に取り組めるように発問を工夫していきます。	初めての理科の学習のため、学習の流れを丁寧に積み重ねていきます。既習事項を生活に生かしてものづくりをしたり、発表したりする機会をもちます。
4年	基礎と活用の正答率を見ると、6.5ポイント活用が下回っており、基礎をいかして問題解決することに課題があります。実験や観察の結果から考察することや学習の日常化に力を入れていく必要があります。	実験や観察だけでなく、結果から「なぜそうなったのか」をクラスやグループで話し合い、自分の考えを言語化する時間を確保します。また「予想」→「実験」→「考察」→「結論」の学習サイクルを繰り返し学びを定着させていきます。	理科への苦手意識を減らすためにも、児童がこれまでに学んだことや日常生活での体験を授業の導入や問題設定に生かし、実感を伴った学習を設定します。また、観察や実験(植物や天気・星空の観察)も積極的に取り入れていきます。学習した内容を復習したり、理科で使用する道具の使い方を繰り返し指導します。
5年	教科の正答率の基礎と活用を見るとどちらも目標値を達成しています。今後もこの傾向を維持するよう基礎・基本の内容を大切にしつつ、活用面では獲得した知識を使って考えを深めるような実践にも力を入れていきます。	観点別正答率の「知識・技能」と「思考・判断・表現」ともにバランスよく目標値を上回っているので、さらに日常生活と結び付けて考える学習を取り入れ、応用力を身に付ける授業展開をしていきます。	実験や体験活動、現物を見たり、触れたりする学習等も取り入れながら、分かりやすい授業に取り組み、引き続き基礎の定着に努めます。発展指導では、日常生活と関連付けた演習問題に多く取り組みます。
6年	活用、すなわち応用力の正答率は目標値や区・全国平均を上回っているとはいえ、得点率が50%台と低い平均点にとどまっています。このことから、応用力を伸ばす指導が必要であると考えられます。特に、物質・エネルギー領域での低い得点率(50%台)を60%台以上まで伸ばすような指導が課題であると言えます。	物資・エネルギー領域の授業は理科室で行う実験・観察が多く、実験・観察から得られる「知識・技能」の蓄積が「思考・判断・表現」の観点別能力を伸ばすことができると期待できます。実験・観察を細部にわたり指導し、考察力やまとめる力、応用力を伸ばす教科活動を積極的に行います。一方、生命・地球領域など自然を扱う内容の授業においては、ニュース・新聞などの情報、ICTを活用した映像などで意識を発揚し、校外授業、または授業外活動などへの応用を視野に入れた学習展開をしていきます。	単元ごとの問題演習にとどまらず、日常生活における興味・関心などの問題意識とその解決の方法を学べるような指導をしていきます。そのための問題提起を随時提供することで学習意欲を発揚します。また、小中一貫校である本校児童が後期課程でも深い学びができるような授業展開をします。そして、児童自らが積極的に知識や技能を習得し、自ら考えて判断し、主体的に学ぼうとする態度を養成します。